

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護理論		必修	1	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
坂本 文子	418	fumiko.sakamoto	月曜日～金曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	看護理論は看護実践を合目的、科学的に行なうための根拠となる学問である。本授業では、ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、ロイなどの看護理論の基礎を理解し、看護理論の実践的活用の概要と意義を理解することを目的とする。対面による授業を通してこれらを理解し、フィードバック等により、さらに理解を深める。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	看護の見方や考え方の基盤となる看護理論を学び、看護理論を実践に活用する方法を考える。具体的には、看護学概論で学んだ看護理論の振り返りと代表的な看護理論を学習した後に、グループワークや発表・討論により、学生の基礎看護学実習 I における体験と理論を結び付けて看護理論の実践への応用について考えられるように工夫する。				
教科書	看護理論－看護理論21の理解と実践への応用 (改定第3版) /編:筒井真優美 /南江堂 /2019				
参考書	看護学概論で用いた教科書・資料 その他、適宜紹介する。				
外部教材	必要時紹介する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	看護理論の基礎となる理論や概念について説明できる。		HSU(1)(3)、NS(1)(3)(4)		
②	看護理論の分類と特徴について説明できる。		HSU(1)(3)、NS(1)(3)(4)		
③	主な看護理論家の提唱する看護理論の特徴を説明できる。		HSU(1)(3)、NS(1)(3)(4)		
④	看護理論の実践への活用について実習体験に基づいて考え、発表・討議できる。		HSU(1)(3)、NS(1)(3)(4)		
⑤	看護理論を学ぶ意義について説明できる。		HSU(1)(3)、NS(1)(3)(4)(5)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	看護理論の概要	講義	復習：事後課題に取り組む。	4	
2	看護理論の歴史と動向	講義	予習：事前課題に取り組む。 復習：事後課題に取り組む。	4	
3	看護理論の分類と代表的な看護の理論 F. ナイチンゲール、V. ヘンダーソン、その他	講義 グループワーク	予習：事前課題に取り組む。 復習：事後課題に取り組む。	4	
4	看護理論の分類と代表的な看護の理論 F. ナイチンゲール、V. ヘンダーソン、その他	講義 グループワーク	予習：事前課題に取り組む。 復習：事後課題に取り組む。	4	
5	看護理論の分類と代表的な看護の理論 D.E. オレム、C.ロイ、その他	グループワーク	グループワークの準備に取り組む。	4	
6	看護理論の分類と代表的な看護の理論 D.E. オレム、C.ロイ、その他	グループワーク	グループワークの準備に取り組む。	4	
7	看護実践への看護理論の応用	グループワーク	グループワークをもとに、発表準備を行う。	4	
8	看護実践への看護理論の応用	プレゼンテーション まとめ	看護理論を学ぶ意義について考え、発表・討議を踏まえて、本科目の学びをレポートにまとめる。	2	
試	定期試験				

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

		達成度評価						
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
総合力指標	知識・技術力	40	0	0	0	10	100	
	思考・推論・創造する力	20	20	0	0	0	40	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10	
問題を発見・解決する力		0	0	0	0	0	0	
評価のポイント							フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点						
試験	①	✓	学期末に定期試験を実施して評価する。					解説を行い、知識を確実にする。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
レポート	①	✓	開講の半ばにレポート課題と提出日を提示する。					レポート内容を点検し、評価し、コメントを付記して返却する。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
成果発表	①		授業やグループワーク、レポート課題への取り組みを評価する。評価割合は10%とする。					提出物の遅れや消極的な態度が見えた時は、指摘し、理由を確認する。
	②							
	③							
	④	✓						
	⑤							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
その他	①							
	②							
	③							
	④	✓						
	⑤							
備 考								
他担当教員	なし							
教員の実務経験	看護師として15年の実務経験、看護教員として18年の実務経験を有する。							
実践的授業の内容	この科目は、担当教員の臨床看護実践、教育、研究活動における経験をもとに、事例を交えて授業を進める。							
その他	今後の社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性がある							